

## みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョンの取組状況について

平成 28 年度から取組を開始した「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」の 30 年度の取組内容を報告するもの。  
また、「今後実施を検討する事業」として位置付けていた事業の検討結果について、併せて報告するもの。

### 1 成果指標について

#### 【指標の推移状況】

「◎」目標値に達している。「○」順調に推移している。「△」停滞している。「×」後退している。「－」取組後の数値を把握できない。

#### 【戦略：1 圏域全体の経済成長のけん引】

計画策定時値	指標の推移					目標値 (平成 32 年度)	指標の 推移状況
農林業圏域内 総生産額	3,589 千万円 (平成 24 年度)	3,478 千万円 (平成 25 年度)	3,322 千万円 (平成 26 年度)	3,618 千万円 (平成 27 年度)	<u>3,757 千万円</u> (平成 28 年度)	3,768 千万円	○
製造品出荷額 等	26,871 千万円 (平成 25 年度)	28,253 千万円 (平成 26 年度)	32,074 千万円 (平成 28 年度)	—	—	28,215 千万円	◎
第三次産業の 年間売上額	251,457 千万円 (平成 24 年度)	346,389 千万円 (平成 28 年度)	—	—	—	264,030 千万円	◎
圏域内観光客 入込数	999 万人回 (平成 26 年)	1,014 万人回 (平成 27 年)	940 万人回 (平成 28 年)	950 万人回 (平成 29 年)	<u>977 万人回</u> (平成 30 年)	1,049 万人回	○

○指標の推移状況の要因

- ・「農林業圏域内総生産額」のうち、農業は25年度、26年度と減少傾向にあったが、27年度は前年比12%増、28年度は前年比7%増と増加傾向が続いている。市町村別でみると、岩手町及び紫波町が前年比約10%の伸び率となっている。一方、林業では前年比9.4%の減少となり、8市町とも前年の総生産額を下回っている。
- ・「製造品出荷額等」は、増加で推移し、目標値に達している。特に、盛岡市、八幡平市、滝沢市、矢巾町での増加が顕著である。分類別では、「食料品製造業」や「金属製品製造業」が伸びている。（平成30年度同）
- ・「第三次産業の年間売上額」は、28年度は24年度と比較して、約95,000千万円増加している。特に盛岡市の「医療、福祉」や「卸売業、小売業」、紫波町の「卸売業、小売業」、矢巾町の「学術研究、専門・技術サービス業」が増加している。（平成30年度同）
- ・「圏域内観光客入込数」は、成果指標を設定した26年と30年を比較すると広域8市町全体では、4.92%減少しているが、前年比では2.8%増加している。月別では、東北絆まつりが開催された6月に前年比52%増となる109万人の観光客入込数であった一方、1月から3月は平成27年以降減少傾向にある。

【戦略：2 高次の都市機能の集積・強化】

成果指標名	計画策定時値	指標の推移				目標値 (平成32年度)	指標の 推移状況
広域バス路線数/圏域内のJR線及びIGRいわて銀河鉄道線各駅の乗降客数の合計	93路線/ 54,146人 (平成26年度)	93路線/ 53,887人 (平成27年度)	90路線/ 53,945人 (平成28年度)	89路線/ 54,738人 (平成29年度)	<u>88路線/ 55,848人 (平成30年度)</u>	93路線/ 57,000人	△

○指標の推移状況の要因

- ・広域バス路線数は、28年度以降、路線の統廃合などにより微減しており、平成30年度は2路線（アイーナ前行き盛岡大学線・八掛經由長岡線）の廃止及び1路線（ビッグループ滝沢經由青山町線）の新設となっている。

・鉄道の乗降客数について、JR線では有人駅の乗車数のみ公表しており、30年度から上米内駅及び大釜駅が無人駅となったことにより乗車数を反映していない一方で、紫波中央駅が有人駅となったことに伴い新たに乗車数を反映していることから、合計の乗降客数は増加しているが、全体としては横ばい傾向である。（3駅を除くJR乗客数；平成29年度28,161人、平成30年度28,077人）

【戦略：3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上】

成果指標名	計画策定時値	指標の推移				目標値 (平成32年度)	指標の 推移状況
圏域内就業者数	231,055人 (平成22年度)	235,895人 (平成27年度)	—	—	—	243,000人	—
大学卒業生の県内就職率	45% (平成26年度)	45% (平成27年度)	45% (平成28年度)	43% (平成29年度)	<b>44%</b> <u>(平成30年度)</u>	55%	△
戦略3に係る連携事業数（都市圏ビジョンの実施事業数）	24事業 (平成28年度)	26事業 (平成29年度)	30事業 (平成30年度)	<b>30事業</b> <u>(令和元年度)</u>	—	30事業	◎

○指標の推移状況の要因

- ・「圏域内就業者数」は、22年度と27年度の国勢調査結果を比較すると、盛岡市、滝沢市、紫波町、矢巾町は増加しているものの、八幡平市、雫石町、葛巻町、岩手町は減少している。（平成30年度同）
- ・「大学卒業生の県内就職率」は、前年度から1%上昇したものの、横ばいで推移している。ふるさと*いわて*創造協議会事務局では、県外企業に比べて出遅れ感があつた県内企業の採用活動時期について以前より早期化が見られるようになった一方で、首都圏企業を中心とする県外企業では、多種多様な採用活動が展開され、学生の関心が県外企業に向く傾向が続いているものと分析している。
- ・「戦略3に係る連携事業数（都市圏ビジョンの実施事業数）」は、「日本遺産認定推進事業」及び「特別天然記念物ニホンカモシカ滅失処理業務」が事業を終了したが、令和元年度から「(仮称)盛岡広域鳥獣被害防止対策協議会事業」及び「岩手県央へい獣処理協議会事業」を位置付け、広域での取組を実施している。

## 2 「実施を計画する事業」（都市圏ビジョンに位置付けられた実施事業）に係る進捗状況について

各事業の進捗状況の概要は以下のとおりである。なお、各事業の詳細については、「資料 1-2」及び「資料 1-3」のとおりである。

### (1) 戦略 1 産業の営みをつなぐ（圏域全体の経済成長のけん引）

ア 産学金官民一体となった経済戦略の策定，国の成長戦略実施のための体制整備（2 事業）

- ・(no. 2)「東京事務所共同運営事業」は，盛岡広域構成市町の共同による運営の可能性を調査・検討するとともに，当面，企業誘致や観光，移住・定住に関する情報発信の実施拠点として共同利用を図る。

イ 産業クラスターの形成，イノベーション実現，新規創業支援，地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成（4 事業）

- ・(no. 4)「創業支援事業」は，成果指標を「起業家塾受講者数」から、「起業家塾@もりおか参加者のうち起業した者の数(累計)」に変更し，前年度は2名が起業したことから，累計9名となった。
- ・(no. 6)「圏域市町の連携による企業誘致の推進」では，新規に盛岡市1件，滝沢市2件の誘致が行われた。

ウ 地域資源を活用した地域経済の裾野拡大（6 事業）

- ・(no. 7)「盛岡広域まるごとフェア開催事業」は，平成30年10月6日・7日に開催予定であったが，台風による天候不良のため7日の開催を中止したことから，入場者数が3,298人（前年10,041人）と伸び悩んだ。

エ 戦略的な観光施策（7 事業）

- ・(no. 20)「スポーツツーリズム推進事業」では，盛岡広域スポーツコミッションにおいて，盛岡広域から地元オリンピックの輩出を目指すオリンピック選手育成事業，通称「エイト・オリンピックズ・プロジェクト」を実施したほか，国内大会・合宿や事前キャンプ受入では106件の実績となった。

### (2) 戦略 2 人の流れをつなぐ（高次の都市機能の集積・強化）

ア 高度な中心拠点の整備・広域的公共交通網の構築（1 事業）

- ・(no. 21)「(仮称)新盛岡バスセンター整備事業」では，広域連携での検討の準備段階として，盛岡バスセンター再整備に係る整備基本方針を作成し，整備，管理，運営手法等の検討を行った。

### (3) 戦略3 暮らしの安心をつなぐ（圏域全体の生活関連機能サービスの向上）

#### ア 生活機能の強化に係る政策分野（20 事業）

・(no. 27)「保育所の広域入所」では、成果指標を「盛岡市と各広域市町間で保育を委託している児童の数」から、「盛岡市と各広域市町間で入所を希望した児童の内、入所に至った児童の割合」に変更しているが、平成 28 年度末の 55.0%に対し、平成 30 年度末では 64.8%と上昇した。

・(no. 35) (no. 36)圏域における若年者の地元就職を促進するために開催している「もりおか就職面談会等」では、平成 29 年度が 305 人の参加者数であったのに対し、平成 30 年度では 132 人と減少した一方で、「若者の就業支援事業」の成果指標としているジョブカフェいわての利用者数は年々増加している。

#### イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野（7 事業）

・(no. 68)「盛岡広域移住・定住促進事業」では、盛岡広域圏の移住者や相談窓口の情報等を紹介する冊子及びホームページを制作し、各市町に配布を行ったほか、移住お試し体験ツアーの合同開催などの検討を行った。

・(no. 70)電子入札等基盤整備事業では、入札参加資格登録申請システムの開発に先立ち、担当課間の意見交換を行うとともに、競争入札参加資格申請の様式や有効期間の統一を図った。

#### ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野（3 事業）

・(no. 47)「国保盛岡地区協議会事業」では、国保盛岡地区協議会事務局が開催する会議・研修会の参加者数が年間 318 人の目標値に対し、320 人と順調に推移している。

### 3 みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業の事業費について

都市圏ビジョンに位置付けている実施事業の平成 30 年度の事業費は「資料 1-4」のとおり。

### 4 「今後検討する事業」の事業実施判断結果について

都市圏ビジョンは、平成 28 年度から令和 2 年度までの 5 か年計画であり、中間年度を経過したことから、「今後検討する事業」に位置づけられた事業について、各担当部署において実施の判断を行った。1 事業を「実施を計画する事業」として都市圏ビジョンに掲載

することとしたほか、協議を継続すると判断された3事業については計画期間内の事業実施に努めることとし、事業実施を見送ると判断された15事業については掲載を終了することとした。

なお、各事業の平成30年度の検討状況及び実施判断については、「資料1-5」のとおりである。